

## ご挨拶

日本骨代謝学会前理事長 田中良哉  
(産業医科大学医学部第1内科学講座 教授)

平成25年6月から27年6月まで、日本骨代謝学会の理事長を務めさせて頂きました。この度、理事の任期満了に伴い、田中栄新理事長にバトンタッチ致しました。2年間に亘り、学会員の方々に多大なるご協力を賜り、心から御礼申し上げます。この2年間の成果について纏めるようにとの指示を頂きましたので、広報、学術、国際化、法人化を中心に振り返ってみました。

本学会の特徴は、医学基礎、臨床、歯学など極めて学際的な集団であり、骨格系・ミネラル研究を極める特徴的な領域であることです。しかし、「わかりにくい」という評判もありました。そこで、学会のロゴマークを作り、「骨の謎に迫る、骨の病気に挑む」というキャッチコピーを掲げました。また、若い研究者にも魅力的なホームページの作成に努めました。1<sup>st</sup> Author, Infinite Dream, Brave Heart, Hot Paperなどの作成には多くの方のご協力を頂きました。さらに、分野を超えて理解戴くよう「骨ペディア」を発刊しました。いずれも中嶋友紀広報委員長のアイデアと行動力のお陰です。減少し続けていた会員数が、増加に転じたのはその効果の現れです。特に、若い研究者の入会が増え、今後は楽しみになってきました。

学術的には、ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療ガイドライン 2014年版、くる病・骨軟化症の診断マニュアル、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015年版などを公表してきました。会員のみならず多くの臨床医にお役立て戴いているものと思います。発刊により年度収支が大幅に黒字に逆転でき、学会運営の幅を広げることが可能となりました。また、これらは機関誌であるJBMMにも掲載しました。インパクトファクターは過去最高値の2.460ですが、一層の上昇に寄与するはずです。さらに、JBMMに対して学術振興会から5年間の多額の科研費を頂きました。本誌の更なる充実、国際化への発展に繋がるものと期待しています。

国際化においては、IFMRS(国際筋骨格系研究組織連合)の中心メンバーとして、国際的なビッグデータの蓄積、国際的学会間交流、教育プログラムの充実を担っています。池川志郎委員長、福本誠二委員長には多大なるご協力を頂きました。折しも平成27年末に解散するIBMSをIFMRSが継承することになりました。本学会からは、そのメインメンバーとして定款制定、BoneKEyの継承などの課題に対して、中心的に関与しています。また、これまで開催してきた日韓共同シンポジウムに加えて、平成28年からは欧州のECTSとも共同シンポジウム、教育交換プログラムの作成を検討し、国際的地位のさらなる向上が期待されます。

法人化にも取り組みました。定款の作成、法人税の納入、組織改築など整備し、平成 28 年度から法人化されます。医学会への加盟も申請中です。現在、臨床では抗 RANKL 抗体が使用され、カテプシン K 阻害薬、抗 FGF23 抗体が治験段階にあります。本学会の先輩方の発見が斯様な治療に進歩に寄与していることは歴史的事実です。だからこそ本学会の社会的基盤を明確にすることも必要です。学術的、社会的、国際的にさらに貢献できる本学会の進歩を心から期待しますと同時に、学会員の方々の更なるご協力、ご指導をお願い申し上げたい次第です。